



かけはし

発行日：2012年3月1日 第19号

発行：国立病院機構



災害医療センター
地域医療連携室

発行責任者：院長 高里良男



地域医療機関との災害訓練



平成24年1月21日に災害医療センターにおいて災害訓練を実施いたしました。例年、立川広域防災基地連絡協議会との連携訓練を併せて実施しております。本年については東日本大震災を踏まえ、また、今後の起こりうる首都直下地震に備えるためにも、地域における、より密接な連携が必要であるとの考えから近隣病院へ協力をお願いし、立川病院・立川相互病院・武蔵村山病院・東大和病院より快くご参加のお返事をいただきました。

初めての試みであるため、今回は机上シミュレーションを中心に災害時の連携方法、情報発信方法やそれぞれの病院における災害時の対応について検討いただきました。災害発生時の職員の参集方法や押し寄せる患者様への対応方法、また、実際に衛星電話を利用した通信訓練により、それぞれの病院が災害時に通信機器を今後どのように整備するかなど、活発な意見が交わされました。

来年以降につきましてもより多くの地域の病院を交え実施し、連携を深めていきたいと思っておりますので、今後ともご協力をお願いいたします。



木崎輝男庶務係長



机上シミュレーションの様子(立川病院)



大高院長をはじめ多数のスタッフが参加(東大和病院)



机上でのトリアージシミュレーションの様子(立川相互病院)



30名を超える参加者がありました(武蔵村山病院)



医師会と災害医療センター 医療機能連携の会を開催しました



平成23年11月1日 昭島市医師会

平成23年11月1日に災害医療センターと昭島市医師会との初めての医療連携の会を開催することができました。これまで長年にわたって高里院長から昭島市医師会との連携の会開催のご提案をいただいていたのですが、当方の都合もありなかなか実現することができませんでした。今回やっとこれまでの懸案が現実のものとなり、私としては、一安心したところです。

昭島市は、災害医療センターのある立川市に隣接しています。そのため、これまでも昭島市医師会の会員が災害医療センターに患者さんの受け入れをお願いしたり、また、災害医療センターから患者さんを紹介していただくという連携は数多く行われてきたとは思いますが、文書や電話によるやり取りがほとんどで、お互いの“顔の見えない”連携でした。

しかし、今回の医療連携の会で、各部門の担当の先生やスタッフの方々を紹介していただいたり、地域医療連携等のお話をうかがったりで、災害医療センターとの連携が、お互いの“顔の見える”これまでよりさらに身近なものとして実感することができ、大変有意義な時間だったと思っています。また、この機会を契機に昭島市医師会の登録医も6名増えて18名になりました。私達昭島市医師会会員にとって、地域医療の中核に災害医療センターがあるということは、とても心強く、これからも地域の住民が安心してよりよい医療を受けられるよう、さらに災害医療センターとの医療連携を緊密にしてゆくことの必要性を強く感じた1日でした。



昭島市医師会
大田真也会長



高里院長による開始の挨拶



檜垣副院長による連携についての説明



意見交換会の様子



看護師長たちも参加しました



平成24年1月17日 立川市医師会

立川市医師会、国立病院機構災害医療センターとの医療機能連携の会が平成24年1月17日 災害医療センター9階のレストランで開かれました。5～6年前に開かれて以来しばらく途絶えていましたが、今回はセンター内で行われました。

医師会側からは30名の登録医が参加しました。センター側からは各科の部長が全員参加されました。レストランのテーブルに病院の先生方と医師会の参加医師が自由に座り、まさに顔の見える懇談を行いました。

通常はホテルなどで開催されるのですが、院内での開催は初めてのようになります。まず高里院長と私の挨拶で会が始まりました。竹川先生の乾杯で呑んだり食べたりしながらのアットホームな雰囲気です。我々医師会側も出席者全員が自己紹介をして、まさに紹介者の顔を見ていただきました。

また、病院側の先生方から各科の得意としているところや、紹介患者の受け入れ状況などが紹介されました。しかし災害医療センターはその名の如く災害医療を担う基幹災害拠点病院としての施設です。平時は地域中核病院として

の高度医療を提供しています。昨年3月11日の東日本大震災の時にはDMATとしていち早く被災地に医療チームを派遣し、また医療センターそのものが災害医療の司令塔になって活躍したと伺っています。我々立川市医師会は市内に災害医療の中心機関があることはとても心強く思っています。立川市3師会には災害時に3師会が協力して行動する組織があります。地域の災害発生時には3師会も初期医療に少しでも参加協力したいと考えています。高里先生から災害訓練に参加のご案内を頂いていますが、開業医の仕事の関係でなかなか参加できなく申し訳なく思っています。今後連携をさらに深めて日常診療のみならず災害発生時の医療連携につなげたいと思います。今回のような正に顔の見える連携の会が開かれたことはとても有意義だったと思います。今後も病院のスタッフの方には大変でしょうが、今回のような会をまた開いていただきたいと思います。



高里院長による挨拶



立川市医師会
阿川忠郎会長



竹川医師による乾杯



意見交換会の様子



地域の先生方と顔の見える連携をとることができました





診療科からのお知らせ



内視鏡室をリニューアルしました！！

皆様に当院の内視鏡医療をご紹介したいと思います。

災害医療センターは、日本消化器内視鏡学会認定の指導施設であり、様々な内視鏡検査、および治療を手がけています。その上で、安全・安心で質の高い内視鏡医療を提供する取り組みをしています。

患者様の内視鏡に対する抵抗感の緩和対策として、経鼻内視鏡と鎮静下胃カメラを導入しました。また、患者様に負担なく高い診断能を発揮するためにNBI特殊光観察、拡大内視鏡、小腸カプセル内視鏡を行なっています。さらに患者様の安全を高いレベルで確保する対策として、ペパーミントオイルの使用、治療内視鏡に必要な装備の充実、治療内視鏡時に二酸化炭素使用など、今できる最上級の内視鏡医療を提供しています。

地域で開業の先生方は、医療連携室経由で上部内視鏡検査の予約を取ることができます。（「カルナ」(インターネット予約システム)からも可能です。）

今後も皆様と共に地域医療に貢献してまいります。よろしくお願いいたします。

消化器科 一同



内視鏡室受付



経鼻内視鏡装置

Information 1

カルナ (インターネット予約システム) ご案内

「カルナ」(インターネット予約システム)では、各診療科の外来診療やCT・MRI・上部内視鏡等の検査を24時間、365日いつでも予約することができます。また、当サービスは無料でご利用いただけます。

ご利用をお考えの際は
地域医療連携室へ
ご連絡ください



医療連携ニュース「かけはし」へのご意見ご感想をお待ちしております。ご連絡は地域医療連携室まで。

【地域医療連携室直通】 担当: 樋口早智子(ひぐちさちこ)

TEL: 042-526-5613 FAX: 042-526-5547

Eメール renkei@tdmc.hosp.go.jp



Information 2

かけはし交流会のお知らせ

多発性骨髄腫患者・家族交流会

日時 平成24年3月14日(水) 15:00~16:30
場所 災害医療センター 第三会議室
内容 多発性骨髄腫の病気について
竹迫直樹血液内科医長

交流会参加スタッフ

竹迫直樹医長
緩和ケア専任看護師
5東病棟看護師
MSW

対象者 当院で多発性骨髄腫の治療を受けた方
参加費 無料



お問い合わせは地域医療連携室まで